

野生動物・行動生態野外実習（幸島実習）

概要

文責 杉浦秀樹（京都大学野生動物研究センター）

2022年5月9日～5月15日の日程で、京都大学の大学院の実習「野生動物・行動生態野外実習」（通称、幸島実習）を実施した。京都大学・野生動物研究センターの修士課程1年の大学院生5名が実習生として参加し、野生動物研究センターの2名の教職員が指導した。

初日から5日目まではずっと波が高く、島に渡れなかったため、本土側のさまざまな自然観察を行った。1日目には自動撮影カメラを設置して、その基本的な操作を学んだ。2日目は都井岬でウマの観察を行った。生まれたばかりのへその緒のついた仔馬を観察したほか、研究者にウマの解説をしていただいた。3日目は、観察所の近くの約3km山道を歩いて往復し、動物や痕跡を記録した。サルの糞やイノシシの骨のほか、コウモリをみることができた。また、市木川の河口沿いに歩き、絶滅危惧植物のハマナツメや、外来植物のアツバキミガヨランが浜辺に侵入しているのを観察した。4、5日目は、宮崎県立自然史博物館で、宮崎県の自然について学んだ他、自動撮影カメラの回収と分析、GPSデータの基礎的な分析などを行った。6日目によく島に渡り、ニホンザルの観察を行うことができた。そのまま1泊し7日目も観察を行った。期間が短かったため、データを収集できるほどには、観察ができず、予定していた行動の分析と発表は行えなかった。



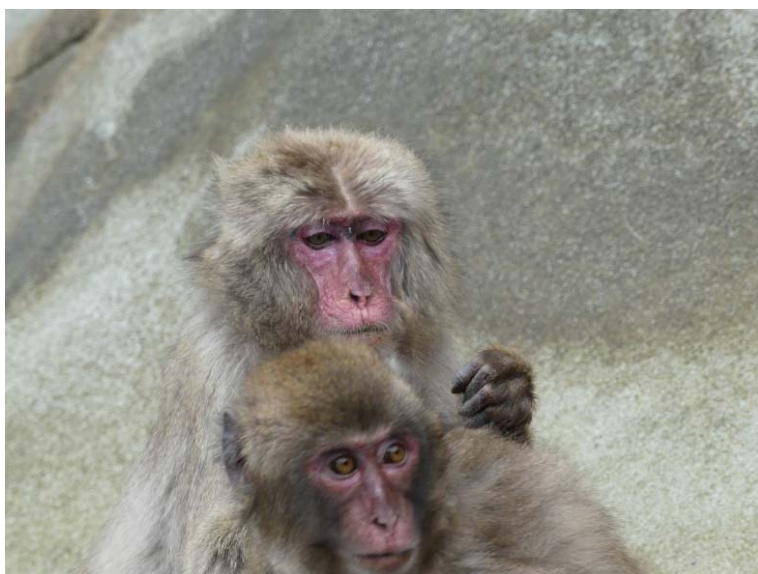
へその緒の残る生まれたばかりの仔馬（都井岬）



観察所近くの山道を歩いて動物を探す



市木川の河口に侵入していた外来植物アツバキミガヨラン



やっと幸島に渡って観察したニホンザル